

● シリーズ 私の見た日本 Vol.227

京町家の軒下で一杯のコーヒー A Cup of Coffee Under The Eaves of a Kyomachiya

曹 芋睿 (ツァオ チェンレイ)

中国雲南省生まれ。2023年からチェンマイ大学建築学部(京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻)に在籍し、異文化の継承と革新について研究している



訪日外国人にとって必見の地である京都は、平安時代に都として栄え、数千年にわたる日本の歴史と文化を今も保存し続けています。ここを訪れると、まるで数千年前の日本を体験するかのような感覚に包まれます。京都が「古都」として広く知られているのは、文化や建築物が良好に保存され、日本と世界の伝説的な文化都市としての地位を保っているためです。

私は京都に住んでいたとき、869年に起源をもつ京都で最も重要で賑やかな祭りである祇園祭に参加しました。この平和を祈願する祭りには毎年数十万人の人々が集まり、町全体が活気に満ち溢れます。祇園囃子の独特なリズムとメロディー、そして山鉾に合わせて練り歩く伝統衣装を身にまとった人々の光景は、まるで絵巻物に描かれた場面のようにでした。技術が発展した今でも、京都では古き良き時代の生活を目にしたり、体験したりできるのが魅力のひとつです。この街には神社や寺院が随所に点在しており、伝統的な建物の構造と日本の美しい風景が見事に融合していることに気づきます。春には満開の桜、夏には緑豊かな自然、秋には色鮮やかな紅葉、冬には一面の雪景色と、京都ではどの季節も見応えがあります。日本人は、建築設計

や庭園のデザインにおいて常に自然との調和を重んじ、四季の美しさを最大限に引き出してきました。

京都の街を歩くと、伝統的な京町家が今も良好に保存されていることに気づきます。京町家の正面部分は通常、店舗として、内部は住宅や庭園として利用されます。正面は狭く、奥行きが深い構造で、内部には採光と通風のための小さな吹抜が設けられています。主要な構造は木造で、外壁は木板または土壁、屋根は瓦葺きです。現在も多くの京町家は店舗として使われており、一部はレストランやカフェに改装され、また一部はギャラリーとして再利用されています。伝統建築と現代デザインが見事に融合し、現代の住民や観光客に、日本の「美」を感じられる空間を提供しています。

日本では有名な抹茶文化に加え、カフェ(喫茶店)も重要な役割を果たしています。20世紀の昭和時代には、喫茶店は文人や芸術家たちの集いの場となり、文化交流や創造の拠点として機能しました。今も営業を続ける老舗のカフェは少なくありません。近年では、カフェは単にコーヒーを提供する場だけでなく、店内のデザインにも力を入れ、都会の憩いの場として進化しています。京都には、

伝統的な京町家建築とモダンなコーヒー文化を組み合わせられたカフェが多く、京都ならではの独特な雰囲気を作り出しています。市民や観光客は空き時間に京町家カフェを訪れ、伝統的な建物の雰囲気を感じながらコーヒーを楽しみます。これらのカフェは京町家で営まれているのですが、それぞれの地理的な位置や間取り、構造、装飾が異なるため、各店舗は独自のスタイルを持っています。

ブルーボトルコーヒー 京都カフェ

1291年に建立された南禅寺の隣には、アメリカのコーヒーブランド「ブルーボトルコーヒー」があります。このブルーボトルコーヒー京都カフェは、そのユニークな立地から地元の人々や観光客にとって日本で重要な店舗の一つとなっています。この店舗は二つの異なるエリアに分かれており、手前の建物はブルーボトルコーヒーの関連商品を販売するショップエリアで、奥の建物はコーヒーの製造と座席として使用されるカフェエリアです。どちらの建物も伝統的な京町家の2階建てで、二つの建物の中央にはオープンエリアがあり、ここでもコーヒーを楽しむことができます。全体のデザインは、京町家本来の伝統的な建築様式を活かしており、特に正面の建物は伝統建築の歴史的要素を完全に表現

しています。後方のカフェエリアの建物は、伝統的な要素のスタイルを保持しつつ、現代建築のデザインを取り入れています。建物の外観は、元々の木造と土壁のデザインからフルフロアのガラス窓に改められ、内部の木造構造や人々の活動がはっきりと見えるようになりました。この店舗は、自然への敬意と周囲の環境を反映するためにナチュラルカラーやニュートラルカラーを基調とし、木や石を多用したシンプルなスタイルでデザインされています。店内でコーヒーを飲む際には、室内の伝統的な建築スタイルを感じるだけでなく、大きなガラス窓を通して外の風景を楽しむこともできます。このミニマルなデザインは、シンプルさ、自然、そして不完全な美しさを強調する日本の伝統的な美的概念「侘び寂び」を表現しています。

HOO

京都の二条城は1603年に築城された名城で、その建築様式は江戸時代の芸術様式を反映しています。二条城周辺には、歴史あるカフェやレストランが数多く存在し、京町家を活用したモダンなカフェも多く見られます。二条城近くの住宅街に位置するHOOは、モダンなコンクリート造りの建物です。外観は元の薄茶色の壁を残し、周囲のモダンな建物や伝統的な建築と調和しています。1階のコーヒーコーナーには壁一面の窓が設置され、コーヒーショップの内部がよく見えるようになっています。外観はモダンですが、内部は木造建築の柱や梁、年季の入った屋根の木板、京町家の土壁など伝統的な建材が多く使用されており、中に入ると温かく居心地の良い雰囲気が広がります。

1階はコーヒーショップの製造エリアで、バーは周囲の素材と調和する石レンガで作られています。カフェ全体に天然素材を使用しながらも、家具や照明、装飾品、コーヒーカップなどの細部には現代の素材が取り入れられており、モダンで芸術的な雰囲気が感じられます。

ACTUAL KYOTO

ACTUAL KYOTOの最大の魅力は、京福嵐山線のすぐそばに位置していることです。建物の外観は新築の京町家風で、1階のエントランスには壁一面の窓とガラス戸があり、屋外でコーヒーを楽しめるスペースが3~4つ設けられています。扉を開けると、内装にも石や木、土壁などの自然素材が多く使われていることが感じられます。ACTUAL KYOTOは、装飾において自然素材と現代素材を組み合わせることを好み、元の土壁の一部を残しつつグリーンマテリアルで改修したり、コンクリートと石を融合させたデザインを取り入れたりしています。1階のバーエリアは建物の端にあり、黄色と薄赤のストライプが施された石造りのバーです。1階左側のテーブルと椅子はすべてコンクリート製で、座面には伝統工芸品のゴザが敷かれ、客席が冷えないよう配慮されています。テーブルは不規則な形状の正方形で、コンクリートのベースに緑と茶色の塗装が施されています。右側には石のテーブルと竹で編んだモダンな椅子が使われています。コーヒーを飲みながら電車が通過するのを眺めることができ、楽しさが増します。伝統的な美意識を保ちながら、伝統と現代の素材やデザインを

融合させたこのカフェは、アートな雰囲気をさらに高めています。

京都では、他にも多くのカフェが伝統的な京町家を舞台としています。五条の住宅街に位置するWEEKENDERS COFFEE ROASTERYでは、伝統的な京町家の屋内カフェスペースを抜け、中庭で景色を堪能しながらコーヒーを楽しみます。また、blend kyotoも京町家の1階をカフェエリアとして使用しており、通り過ぎる人々はバリスタがコーヒーを淹れている姿や店内でコーヒーを楽しむお客さんの姿が見られます。

京都のさまざまな場所に点在する京町家カフェは、コーヒー好きの市民や観光客がSNSや書籍を通じて知り、古い街並みを散策しながらたどり着きます。カフェに向かう途中、京都のいくつかの路地を通り抜けることで、伝統的な建築の美しさや、思いがけない発見をすることもあります。これらのカフェは、おいしいコーヒーを提供するだけでなく、特別な地理的な位置やデザインスタイルを通じて、京都ならではのライフスタイルを紹介し、歴史と文化を広めています。カフェは、ただコーヒーを楽しむ場から、人々の日常生活や歴史の伝承に欠かせない存在となっているのです。

(翻訳: 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻 藤原 桂奈)



京都の街



京都の寺



ブルーボトルコーヒー



ブルーボトルコーヒーのカフェエリア



HOO



HOOの内観



blend kyoto